ゼミ資料

1 今週やったこと

- RoBERTa モデルで比較
- PLaMo だけでラベルを推定できるか

2 RoBERTa 事前学習済モデルで 実験

後期発表では東北 BERT のみを扱っていたため、別モデルでの精度が見たいという目的のもと RoBERTa 事前学習済モデル ("rinna/japaneseroberta-base") に切り替えて実行しようと思ったが、エラーを解決できなかった. 東北 BERT との仕様違いの所で実装ミスがあるはず... 早稲田1の方で今実験回しています.

3 PLaMo だけでラベルを推定で きるか

PLaMo API ベータ版を用いて,

- 記事のタイトルと本文情報
- 各記事ラベルの情報と簡潔な説明文
- 出力として想定される JSON Schema

を与えた時に、単純にラベルを識別できるかについてテストデータセットのみに対して調べた. (LLMのファインチューニングではなく、単に質問に答えられるか.) この時、温度パラメータの値は 0.0 とした. 図 1 に JSON Schema、図 2 にプロンプトの概要を示す.

まず, 殆どのデータに対して

のような正しい JSON 形式での回答を得ることができたが、全 768 データの中で 3 件のデータでは 0 から 8 以外の数字 (例: 269, 14.4) を含んでいた 90 大変のデータでは正しい JSON に加えて補足文 (「以上が結果です.」のような文章) も出力されてしまっていた.

表 1 にテストデータに対する識別結果を示す. 比較として 1 位が真のラベルの場合のみ正解とした場合と, 上位 3 位までに真のラベルがあれば正解とした場合を示す.

表 1: 実験結果

	Acc	F1
後期発表	0.9687	0.9683
1位のみ参照	0.5135	0.4488
3 位まで参照	0.7989	0.7976

```
schema = {
    "type": "object",
    "results": {
        "1st": {"type": int, "description": "最もふさわしいラベル番号"},
        "2nd": {"type": int, "description": "2番目にふさわしいラベル番号"},
        "3rd": {"type": int, "description": "3番目にふさわしいラベル番号"}
    }
}
```

図 1: JSON Schema

また,図 34 に,混合行列を示す.上位 1 つだけ見た時点で,特定のクラスに関しては高い精度を示しているが,独女と Peachy など似たラベルに関しては片方に集中して分類されていることが分かった.

4 次やること

- LLM を用いてデータの重要語を上位 n 語抽出して, そのデータのみで学習をし、精度がどれだけ落ちるか.
- LLM を用いてデータの重要文を上位 m 文抽出して, そのデータのみで学習をし, 精度がどれだけ落ちるか.
- LLM を用いてデータの要約文の出力形式を短文 m 文で厳格にし (学習データの簡素化), そのデータを 活用して学習をし, 精度がどれだけ落ちるか.

以上.

 $^{^{1} {\}rm https://hugging face.co/nlp-waseda/roberta-base-japanese}$

5 追記

早稲田 RoBERTa 事前学習済モデル の結果について、Acc~0.8994, F1 値 0.8986 となった. モデル名の所を変えただけのため、学習曲線を見てみるとまだ学習途中のように思えた. また, p, q, r の学習推移において、後期発表の場合よりも r を重視しており, p の値が途中から下がり始めている新しい傾向が見られた. 学習パラメータなどの調製が必要.

図 2: プロンプト

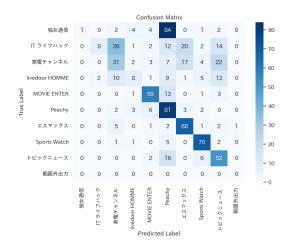


図 3: 混合行列 (上位 1 位まで参照)

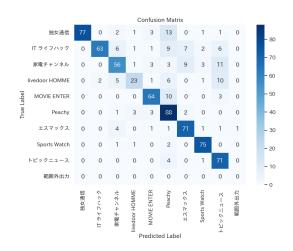
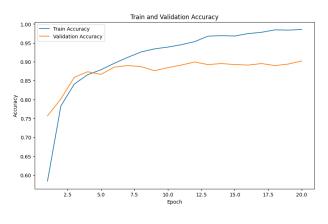


図 4: 混合行列 (上位 3 位まで参照)



☒ 5: RoBERTa Acc

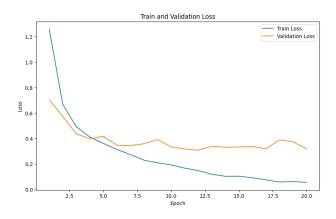
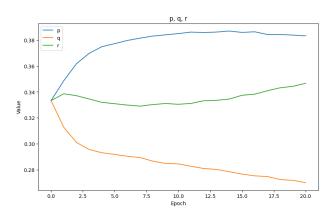


図 6: RoBERTa loss



 \boxtimes 7: Roberta p,q,r